

平成 29 年 4 月 3 日（月）知事記者会見

知事

県民の皆様、記者の皆様、おはようございます。

いよいよ、平成 29 年度がスタートいたしました。新たな気持ちで、「県民の皆様のために」という根本を忘れず、気を引き締めてしっかりと県政に取り組んでまいります。

先ほど、職員に対し、年度当初に当たっての挨拶をいたしました。改めてやまがた創生に向けた 5 つのチャレンジについてお話をし、私と一緒に頑張ってもらいたいということをお願いしたところであります。

また、職員には次のこともお話をしました。

県行政における基本は「人」であります。職員一人ひとりが持てる力を十分に発揮していただくことが大切であるということ、そして引き続き「県民視点」、「現場主義」、「対話重視」この 3 点を基本的な意識・姿勢として、業務に取り組んでいただきたいということ。

それこそ、現場の実情や課題を正面から捉え、危機感を共有し県民の皆様と意思を同じくして今後の発展に向けた具体の施策を立案・実行することができると考えているところです。

県行政におきましては、常に、「県民の皆様のために」という目的をしっかりと意識して、チームワークを大切に、スピード感を持って、業務に当たっていくことが大変重要だと考えております。そして、職員が存分に力を発揮するためには、まずもってなによりも心身ともに健康でなければなりません。

一人ひとりの「仕事と生活の調和」いわゆるワーク・ライフ・バランスをしっかりと意識して、事務の効率化、時間外勤務の縮減を進め、働き方を見直していくこと、そのうえで、一人ひとりが山形県の営業マン・営業ウーマンなんだ、という気概を持って、県民の皆様幸せのために、県勢発展のために、私と一緒に頑張ってもらいたいとも申し上げたところであります。

さて、今後、本県では、全国的、国際的な大会などの開催が数多く予定されております。7 月には本県を幹事県として宮城県、福島県とともに、「全国高等学校総合体育大会」いわゆる「南東北インターハイ」が、来年 2 月には、東北では初となる「国連世界観光会議」が開催されます。

そして、来年度になりますけれども、「全国農業担い手サミット」、また、招致が実現すれば東北で初となる「IWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）」SAKE 部門の審査会なども予定されます。こうしたイベント開催を契機に、山形県の新たな活力を生み出すとともに、大会等の成果を今後の本県の発展に確実に結びつけてまいりたいと考えております。

私は、知事就任以来一貫して、「心の通う温かい県政」を基本姿勢として、ここ山形県で暮らし続けたいという県民の皆様の願いを何よりも大切に、県民の皆様生命(いのち)

と生活を守ることを最優先に、活力溢れる山形県の実現に取り組んでまいりました。

今後も、県民の皆様や市町村としっかりと対話を重ね、現場の声を大切にしながら、「自然と文明が調和した新理想郷山形」の実現に向けて「やまがた創生」に全力で挑んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

☆ フリー質問

記者

朝日新聞の前川でございます。知事、今年度もよろしくお願いいたします。

知事

はい。よろしくお願いいたします。

記者

知事、新年度に当たって、ここに力を入れたいとか、こういうところに一番といいますか、プライオリティを置きたいとか、なにか今そういう思いはありますか。

知事

そうですね、やはり山形県を元気にしていくということがやっぱり一番なのでありますけれども、社会インフラの整備ということをお願いしたわけでありまして、それは、目的はやはり交流人口の拡大ということにありますので、全国大会などの催しはもちろんでありますけれども、その交通基盤をしっかりと整備するようなことにも力を入れて、そして市町村ともっともっと一体となってですね、また隣県と連携をしたりしながら、交流人口を拡大して、山形県の活力、経済活性化ということに結びつけていきたいなというふうに思っております。

でも本当に人口減少というところがね、大変な課題なのでありますけれども、それもやはり市町村と一緒にやって取り組んでいくということが大切だなと思っております。

記者

はい。ありがとうございます。

記者

おはようございます。山形新聞の田中です。今年度もよろしくお願いいたします。

知事

はい、お願いします。

記者

先ほどの年度訓示で、5つのチャレンジということで示されましたけども、今後4年間、3期目を見通す上です、この5つのチャレンジ、平成29年度をどのように位置づけて今後4年間の県政運営を展望なさっておられるのか、その考えを教えてください。

知事

はい。私の3期目がスタートしております、今後4年間の最初の年ということであり

ます。「やまがた創生」、しっかりと加速していく年だというふうに言っておりますけれども、やっぱりその一言に尽きるのかなと思っております。

本当に課題は山のようにありますのでね、産業振興、そして人材育成、これはもう歴史的に見てももう時代を越えて、そして横のその横軸、縦軸、全部越えてもう共通しているところなのかなと思っておりますので、しっかりとそこに力を入れるということが、やはり山形県の活力に結びついていくものと思っております。

時代というものをしっかりと見極めながら、やはり将来を見据えた施策というものを打っていく、そのことが大事なのではないかと思っております。

やっぱり若い人たちが希望をもって進んでいける、一緒になって作っていくという意識を醸成して頑張ってもらいたいというふうに思っております。

記者

はい。ありがとうございます。

記者

毎日新聞の野間口です。よろしくお願ひします。

知事

はい、よろしくお願ひします。

記者

すみません、先ほどの訓示です、震災に言及されていたかと思うのですが、その中で震災から6年経っている、いまだに2,800人が避難を続けていると。「転換点とも言えるような厳しい状況にあると思うが」というような言及がありましたが、その転換点というのは、自主避難者の方に対する借上げ住宅の支援の打ち切りというものを見据えた発言だったのでしょうか。そのあたり詳しく教えてください。

知事

はい、やはり住宅支援ということが、この3月で打ち切りというようなことがあったことは大変、大きな状況ではなかったかなと思っているところです。避難生活が長くなればなるほど、さまざまな悩みも深くなっていくのかなと私も心配をしておりますし、だからこそ何ができるのかももう一度しっかりと避難者の皆さまとお話を、対話をしながらできることをやっていかなければならないという思いをまた新たにしているところでございます。

記者

TUYの高木です。今年度もよろしくお願いたします。ここ数年、ずっと知事の訓示を拝聴しておるのですが、例年に比べて近隣諸国、またアメリカに対する、海外に対する言及が多かったようにお聞きしていたのですが、その意図を改めて教えていただけますでしょうか。

知事

はい。そうですね、言われてみますと、そうかなと思いますが、それだけ国際化というものが進んでいるのかなというふうに思っています。

何年前に、私、発信元年というようなことを申し上げて、しかも打って出る年というようなふうに申し上げたときもありまして、結構、海外にも行くようになったかなと思います。行くと、来ていただけるということがあって、コロラド州に行ったその後にはコロラド州の方々がおいでになったり、台湾に行けば台湾の方がおいでになったりと、その相互交流になるということを実感しているところであります。それで、経済交流にもつながっていきますし、ミラノに行きましたときにもそこでつや姫大使を任命したり、またハワイもそうでありますし、台湾、中国、アメリカといったところに、いろいろなところと交流をしていくことで、お互いにウィンウィンの関係を築いていくことはできるというふうに思っております。

県内の、その市場が小さくなっていくというようなことを思ったときに、そこをなんとか抑えていくということも大事なのでありますけれども、並行してやはり外へ打って出て、その交流拡大をして、物を、農産物、工業製品を売ったり、またたくさんの方に来ていただいたりということで、やはり山形県を活性化していく大きなその方向というものに視点をしっかりおいて、県政を行っていくことが必要かなということで、結構、その海外にも言及したのかなと思っております。経済がグローバル化しているというのがやはり大きいと思います。やはり危機感もちょっと、しっかりと持っていなければいけないという思いがあります。固有名詞を出すまではないと思いますけれども、やはりこれから我が国がどうなっていくのか。我が国とのいろんな交渉、交流ということがどうなっていくのかというのが結構、それぞれの国々の指導者が親日的かそうでないかでもう大変に、格段に変わってくると思いますので、どういうふうな状況に世界がなっていくのかということに対

して、やはり県としてもしっかりと注視をしながら、県政に取り組んでいかなければなら
ないなというふうに、まあ本当につくづくと思うところであります。

記者

ありがとうございます。

知事

はい、皆さん、では今年度また1年よろしく願いいたします。